

普及技術概要書

ヤイトハタ養殖に適したEP飼料							
[要約] 4種類のEP飼料* (マダイ用、シマアジ用、ハマチ用、トラフグ用) を使用してヤイトハタの養殖試験を行ったところ、成長や餌料コストの面でマダイ用EPが最も良い結果となった。							
研究機関	水産試験場八重山支場			連絡先	09808-8-2255		
部会名	水産	専門	養殖	対象	ヤイトハタ	分類	普及

[背景・ねらい]

ヤイトハタの養殖が県内各地で行われるようになったが、養殖技術は完全には確立されていない。そこで、本種の養殖特性を把握するため成分組成の異なるEP飼料を使用し、養殖試験及び成長の比較を行った。

[成果の内容・特徴]

- ①平均体重42.7gのヤイトハタ人工種苗を屋内50kl水槽4面に500尾ずつ収容し、養殖試験を行った。餌は、マダイ用、シマアジ用、ハマチ用、トラフグ用のEP飼料を、それぞれ自動給餌機を用いて毎日飽食量与えた。各EP飼料の一般成分を表1に示した。
- ②各試験区の生残率は95.4~99.4%であった(図1)。試験期間中における各試験区の平均水温は、23.6~24.1℃であった(図2A)。
- ③各試験区について平均体重の比較を行ったところ(図2B、表2)、マダイ用EP給餌区が他の全ての区に比べて重かった($p < 0.05$)。
- ④各試験区の日間給餌率は1.0~1.1%、日間成長率は0.76~0.8%、増肉係数は1.24~1.46で、大きな差はなかった。試験期間中の餌料コストは、マダイ用EP給餌区が250円/kgと最も安かった(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- ①4種類のEP飼料のうち、マダイ用EPが成長及び餌料コストの面で優れている結果であった。県内の養殖業はマダイが中心となっており、同じEP飼料を使用できる点は有利である。
- ②EP飼料別の食味試験は行っていない。

*EP飼料とは、エクストルーダーと呼ばれる造粒機で作られたペレットで、配合原料と多量の水蒸気が高温・高圧下で混和処理されるため耐水性があり、摂取後の消化も良い。

[具体的データ]

表1. 使用したEP飼料の一般成分と魚粉含有量

	一般成分(%)				魚粉含有量(%)
	粗蛋白	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	
マダイ用	48.0	9.0	3.0	15.0	53.0
シマアジ用	47.0	12.0	3.0	15.0	-
ハマチ用	48.0	10.0	3.0	15.0	70.0
トラフグ用	51.0	12.0	1.5	13.0	-

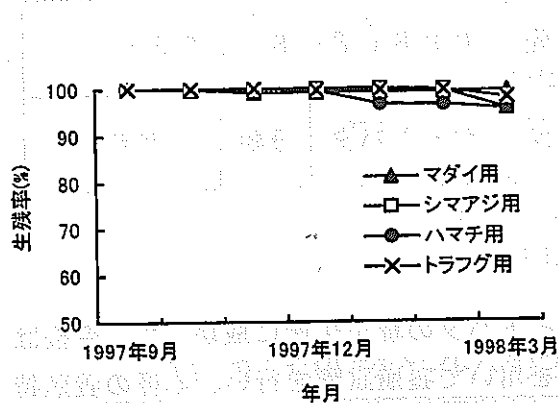


図1. 餌料別養殖試験における各試験区の生残率

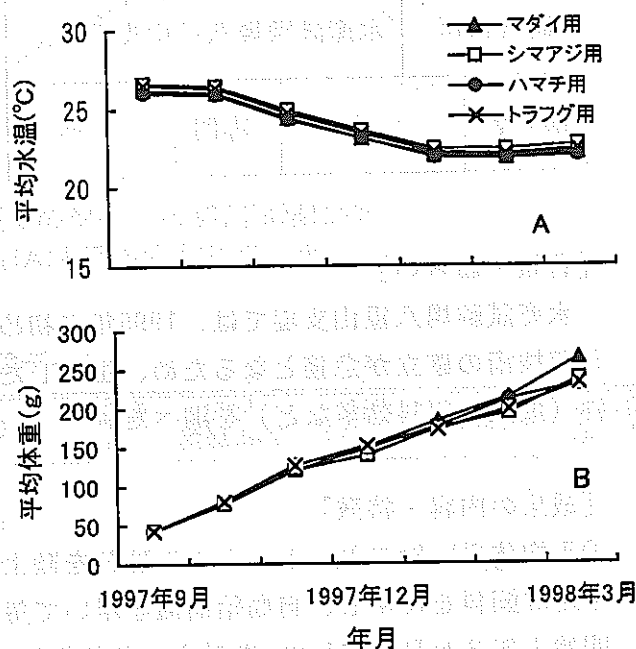


図2. 餌料別養殖試験における各試験区の平均水温(A)と平均体重(B)変化

表2. 餌料別養殖試験のデータ

試験区	試験開始時(97/9/24)		試験終了時(98/3/25)		総給餌量(kg)	日間給餌率(%)	日間成長率(%)	増肉係数	増重量に対する餌料コスト(円/kg)
	平均体重(g)	総重量(kg)	平均体重(g)	総重量(kg)					
マダイ用	42.7	21.0	264.7	121.2	137.4	1.00	0.80	1.24	250
シマアジ用	42.7	21.0	237.4	118.0	137.5	1.09	0.77	1.41	280
ハマチ用	42.7	21.0	230.2	109.8	127.0	1.05	0.76	1.38	382
トラフグ用	42.7	21.0	232.0	113.7	136.5	1.11	0.76	1.46	501

[その他]

研究課題名: 海産魚類増養殖試験

予算区分: 県単

研究期間: 平成9年度

研究担当者: 中村博幸、大嶋洋行、金城清昭、仲本光男

発表論文等: 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書